

前回11月2日の例会記録

出席の状況

会員数 56名 (内出席免除 4名) 出席者数 43名 欠席者数 13名
出席率 79.63% 前々回訂正 90.74%
欠席者 相原, 加戸, 梶谷, 笠原, 木本, 橘高, 家守, 小橋, 小菅, 大賀, 山下(常),
(平野), (渡辺)

ビジター

〈岡山RC〉梶谷 俊介 様

S.A.A.



大饗会員

谷一様、お忙しい中ご訪問ありがとうございます。皆さまに友の会入会をお願いいたしたくスマイルします。



入江会員

・土曜日に行われた募金活動に参加の皆様、お疲れ様でした。堀川会長、差し入れありがとうございました。
・歴史フォーラムまであと1週間となりました。皆様よろしくお祈りします。



西岡会員

11月8日歴史フォーラムにおきまして、会場設営の協力をお願いします。



日笠(常)会員

30日、理大附属中学高等学校の募金活動に多くの会員に参加いただきありがとうございます。樋田会員には、段取り一切をしていただき厚く感謝申し上げます。



樋田会員

先日の理大での募金活動にご参加の方、お疲れ様でした。



樋口会員

結婚記念のお花が届きました。ありがとうございます。

以上、6件 14,000円(累計 326,000円)

会長報告

会長 堀川 辰也

一昨日の理大附属中・高校での、インターアクト募金活動には、13人の会員の参加をいただき、ありがとうございます。おかげさまで、インターアクトクラブとしては、今までで最高額の募金が集まりました。

次の日曜日は、いよいよ岡山の歴史・文化研究フォーラムですので、多くの会員の方の参加を、よろしくお願いいたします。今回は、ノートルダム清心女子高校から参加されますが、先日偶然、渡辺和子理事長がテレビに出演しているのを拝見しました。その番組のなかで、渡辺先生が二二六事件の現場におられたのを聞いて、とても驚きました。渡辺先生は有名な方で名前は存じ上げていますが、先生の生い立ちなどは知りませんでしたので、人にはいろいろな歴史があるのだと、改めて思いました。今日の卓話では、谷一林原美術館館長の岡山の歴史に関するお話が聞けるので、いよいよフォーラムに向けてムードが盛り上がってきたなと感じています。



幹事報告

幹事 入江 直人

- ① 10月31日、インターアクトクラブとの合同募金活動にご参加いただいた皆様にはお疲れさまでした。
- ② 11月のロータリーレートは1ドル=120円です。
- ③ ガバナー月信Vol.5を配付しております。
- ④ 財団室NEWS 11月号、他クラブ週報を回覧致します。
- ⑤ 韓国・ソウルでの国際大会のご案内、歴史同好会第5回例会のご案内を配付しておりますのでよろしくお願いいたします。
- ⑥ 11月8日(日)さん太ホールにおいて「第2回高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム」を開催致します。皆様にはご協力の程、よろしくお願いいたします。
- ⑦ 本日例会終了後、3F「エメラルドの間」において、第5回理事役員会を開催致しますので、理事役員の皆様はご出席ください。



外部卓話

「岡山の歴史と林原美術館(の魅力)」

林原美術館長、山陽学園大学教授・副学長 谷一 尚 様

1573(天正元)年、宇喜多直家は石山(後の二の丸の一部)に本拠を移し、西国街道を現古京町に引き込み、備前福岡の市から商人を呼び、福岡町としました。城下町の始まりです。1590(天正18)年9月、子の秀家は、旭川の河道を付け替え大改修し、本丸を石山から現在の岡山に移します。1594(文禄3)年4月7日付けの法悦宛て秀家文書に、初めて岡山の地名が登場します。天守閣の竣工は1597(慶長2)年です。このように石山、岡山、天神山の三山を中心に、岡山城と城下町は形成されました。その二の丸の対面所跡にあるのが、林原美術館です。

林原美術館の開館は、1964(昭和39)年10月1日、昨年秋に開館50周年を迎えました。実質初代岡山藩主である池田光政は、1632(寛永9)年、国替えて鳥取から岡山に移りましたが(この時、鳥取の米問屋であった林原家も、光政に伴い岡山に移住します)、その2年後、光政が参勤交替で江戸にいた時、本丸にあった藩主居宅御殿が焼失します。節約家の光政は新御殿を立てず、30年間ここ(対面所)を邸宅として用いました。維新後は、池田家の国元別邸兼事務所となりましたが、1945(昭和20)年の戦災で、明治末年に移築した支藩生坂藩(初代藩主は光政三男の輝録てるとし)岡山藩邸長屋門と、土蔵3棟を除きすべて灰燼に帰しました。

1949(昭和24)年、旧制第六高等学校を引き継いで岡山大学が創設されると、岡山総合大学期成会と池田家とが、焼け残った蔵に収蔵されていた岡山藩政文書6.3万点、絵図3千展、古典籍3万点を、後に林原一郎が、明治以降の家政文書数千点を岡山大学附属図書館に寄贈、現在、池田家文書と総称されています。林原美術館の設計は前川國男、県庁や天神山文化プラザ(旧総合文化センター)と同じ設計者です。収蔵品は1万件。うち国宝3件、重要文化財26件は県内最多です。国宝の全部と重文の16件、すなわち指定物件の19/29(65.5%)は林原一郎の蒐集になるものです。池田家伝来品には、光政の娘で、京都の公家一条教輔に嫁した輝姫、9代藩主茂政(もちまさ)の萬寿子夫人、明治の侯爵詮政(のりまさ)の安喜子夫人の婚礼調度や雛道具などがあり、現在開催中の「漆きらめく」展(11月23日まで)でご覧いただけます。



クラブ情報

高校生による岡山の歴史・文化フォーラムに関するお知らせ

集合時間は午前7時45分となっております。午前8時から、岡山駅から岡山市役所までの道路は、交通規制で横切れなくなりますので、ご注意ください。

会場設営について、朝の準備時間が短く、皆様のお手伝いが必要ですので、ご協力下さい。ピアノを倉庫から舞台まで運びますので、若い会員の皆さんは、ご協力下さい。会場設営に関しましては、会場監督の西岡会員の指示を仰いで下さい。

昼食時間について、山陽新聞の社員食堂は山陽新聞の従業員の方も使用するため、一度に100人ほどしか入れません。昼食時間は、高校生を優先して会員の方は、昼食休憩を外して、20階をご利用下さい。以上、よろしく申し上げます。

社会奉仕委員会よりお知らせ

社会奉仕委員長 榎田 道 弘

10月31日(土)12時から 岡山理科大学附属中学校・高等学校の文化祭(爽凜祭)において同校インターアクトクラブと当クラブインターアクト委員会・社会奉仕委員会合同で募金活動を行いました。

今回の活動は同校のインターアクトクラブの皆様と社会奉仕活動を一緒にしませんか?というお話をしたところ、部長様から文化祭での募金活動を手伝ってほしい、というところから決まった活動です。

例会で募金箱を回らせて頂き38,000円もの金額が集まり、会長から同校インターアクトクラブ部長にお渡しさせて頂きました。

活動中は皆様で大きな声を出して、小さな子供からお年寄りまでたくさんの方に募金をして頂く事が出来、今ま



での募金最高金額は12,000円だったそうですが、今回の募金金額は皆様のご協力もあり58,393円で、ジェニファー先生、部長様もとても喜んでおられました。

この募金で集まったお金は日本赤十字社を通じ、中東人道危機救援金として活用されます。皆様ご協力ありがとうございました。



ゴルフ同好会報告

ゴルフ同好会 西岡 貞則

11月15日の日曜日に岡山金陵カントリークラブにて、第261回ゴルフコンペを開催します。組合表を配布しておりますので、ご確認下さい。

また、12月2日の水曜日に忘年会を行います。ご案内を配布しておりますので、出欠を記載の上、ご提出下さい。



淡路阿波の歴史文化にふれる旅 (其の三)

10月11日～12日

藍の生産と吉野川

吉野川は瓶ヶ森を源とし、高知・愛媛・徳島が関係する全長194kmの川で、坂東太郎(利根川)、筑紫次郎(筑後川)とともに四国三郎の異名をもつ暴れ川である。流域は降水量が多く、昔から洪水に見舞われ、徳島藩の代々の藩主はその治水・利水対策に頭を悩ませていた。阿波国内の豪雨による水害を「御国水」、土佐藩の豪雨による水害を「阿呆水(土佐水)」と呼んでいた。現在は早明浦ダムによって流量調節を行なっているが、中下流域では洪水対策として、水防竹林、家の周りに石垣を築く石巻堤、石垣による家の嵩上げなどを行なっていた。第四代藩主蜂須賀綱通は徳島城防衛のため、別宮川(現在の吉野川)を開削浚渫して、ほぼ直線的に紀伊水道へ注ぐ工事を行なった。このため蛇行している旧吉野川は流量が減り、周辺の田畑に塩害をもたらしたという。1752(宝暦2)年分岐部の少し下流に水量調節と灌漑を目的に第十堰を設けた。このころより河口部付近の築堤と新田開発が進んでいく。

このように洪水を繰り返す吉野川中下流域は有機物に富んだ細土砂が堆積しており、また大河ゆえ灌漑の技術上米作に不向きで、藩の奨励もあって藍作と麦作農業に力点を置いた。また当時木綿が庶民の衣類として全国的に流通しており、その染料として藍の需要が伸びていた。「藍の種まき 生えたら間引き 植えりゃ水取り 土用刈り」といわれるように、2月から7月まで農家に重労働を強いた。「嫁にやるまい阿波の北方へ…」と民謡に謡われている。刈り取った葉藍を刻んで寝床といわれる白壁の土蔵造りの建物内で発酵させ菜を作り、これに砂を混ぜて搗き固めて藍玉を作る。この一連の作業の管理を行なう「水師」の技術・責任は重く、農家の実入りは少なかった。

吉野川中下流域には藍玉を生産して財をなした藍師が多く、田中家、奥村家などが知られている。また、久次米家や西野家、三木家、井上家は藍商とともに酒造や質業などで栄えた。久次米家は、文政年間に久次米兵次郎義簡が大藍商として活躍し、明治12～24年に久次米銀行を創設、当時三井銀行に次ぐ大銀行であったが、松方デフレ政策下の恐慌で休業に追い込まれた。のちの阿波銀行として現在に至っている。また西野家は小松島に拠点を置いて活躍し、「野上家」と名乗った。寛政元年讃岐琴平で酒造業を営み、「金陵」の銘柄で販売、金比羅宮の御神酒として採用され隆盛を誇っている。インド藍や化学染料の輸入で、藍生産も1903年を上限として以後衰退していく。

旅行の二日目、大麻山の麓にある阿波一宮大麻比古神社の脇を下って旧吉野川を中心に徳島平野を走ったが、水田は少なくレンコン畑や野菜畑が多く見られた。吉野川に注ぐ小河川といえども堤防は高く強固で、伊澤亀三郎をはじめとした先人の築堤と新田開発の歴史・苦勞がうかがえた。

次回は、「阿波人形浄瑠璃と阿波おどり」について案内いたします。

岡本和夫



例会情報

本日のメニュー (11月9日(ヘルシー和食))

温物 鯛の甘酢餡掛け(玉葱、人参、榎木茸、占地、椎茸) 天盛り(白髪葱、糸唐辛子)

小鉢 青菜柚子風味 糸花鱈 御飯 白御飯(岡山県産こしひかり) 赤出汁(三種盛り) 香物(三種盛り)

次回のメニュー (11月16日)

かぶらのスープ 金目鯛の香草パン粉焼きとほたて貝のポワレ 根菜のサラダ仕立て

デザート コーヒー パンとバター